

事例 No.	55	人口規模	80万人以上	地域ブロック	九州・沖縄	事業タイプ		拠点整備		事業主体		その他	
事業名	青少年アンビシャス広場づくり事業												
実施地方公共団体名	福岡県												
特徴・ポイント	地域のボランティアの運営によって放課後や休日に子どもたちが気軽に立ち寄り、集まることができる「居場所」をつくり、子どもたち同士や大人、高齢者とのふれ合いを通じて、地域で子どもを育てる取組をしている。この居場所としての「アンビシャス広場」を運営している広場委員会に対して助成を行っている。												
事業のねらいと内容	<p>【ねらい】 本県は、平成 13 年度から「青少年アンビシャス運動」を展開している。「青少年アンビシャス運動」とは、家庭や地域社会の教育力を取り戻し、すべての青少年が将来への夢を持って、新しい時代をたくましく生きていけるように、「豊かな心、幅広い視野、それぞれの志を持つ（アンビシャスな）たくましい青少年の育成」を目指す、プラス志向の県民運動である。「アンビシャス広場づくり事業」は、この運動に取組むにあたって7つの提案のうち、「地域ぐるみで子どもを育てよう」に基づいた事業である。「広場」では、大人や子ども相互のふれ合いの中で、創造性や自主性、社会性を身に付けたり、我慢したり他人を思いやる心を育むことを目指す。</p> <p>【内容】 地域のボランティア（自治会、PTA、公民館、学校、子ども会、青少年育成団体、婦人会、老人会、商工会など）の人々が「アンビシャス広場委員会」を組織し、公民館や集会所、空き教室等を活用して、放課後や休日に子どもたち（主に小学生）が、気軽に立ち寄り、友達と遊んだり、本を読んだり、ものを作ったり、大人やお年寄りから何かを学んだり、子どもの自由な発想で思い思いに過ごすことのできる「アンビシャス広場」をつくり運営する。</p>												
導入・実施の背景・経緯 (事業の必要性)	青少年を取り巻く環境 ・学級崩壊やいじめ、青少年犯罪の多発や凶悪化 ・将来の夢や目標を持たない、無気力な青少年の増加 ・家庭や地域の教育力の低下 社会の変化 ・情報化の進展、グローバル化 ・学校週5日制の実施					導入・実施に際して苦労した点							
事業の効果 自由遊びをはじめ多様な体験活動やイベントなど高齢者や様々な団体との交流により異年齢での関わりが人間関係を豊かにし、子どもの自主性や自発性が育まれた。また、大人たちもボランティアとして広場運営に関わり、子どもに積極的に声をかけ共に遊ぶことで、地域全体で子どもを育てる機運が生まれている。					実施にあたってのネックをどのように解決したか 「アンビシャス広場委員会」を組織するメンバーの確保 市町村や団体への事業説明、協力依頼。広場開設のチラシ作成、配付。								
事業のアピールをどのように行なったか													
・広場募集のチラシ作成、配付 ・活動事例集の作成、配付													
必要な協力先・実施主体とその確保策													
(必要な協力先) 自治会、PTA、公民館、学校、子ども会、青少年育成団体、婦人会、老人会、商工会など (確保策) 市町村への事業説明と協力依頼													
概算事業費 (千円/年度) 平成 18 年度予算	73,848 千円 <内訳> 一般会計: 47,621 千円 その他: 26,227 千円 (具体的名称: 子ども育成基金)					問い合わせ先		所属部署: 福岡県青少年アンビシャス運動推進室 TEL: 092 - 643 - 3402 FAX: 092 - 643 - 3389					